

# 中学校 特別活動

## 指導のポイント

生徒のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて、共通理解を図るとともに、教師相互の話し合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切です。

## 評価のポイント

生徒の自己肯定感や生活や学習への意欲を高めるために、生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要です。活動の結果だけでなく、活動の過程における生徒の努力や意欲などを積極的に認めたり、生徒のよさを多面的・総合的に評価したりすることが大切です。

## 1 「評価の観点」とその趣旨、並びに「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

① 学習指導要領の「特別活動の目標」と改善等通知を確認する。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自己実現に必要な情報及び方法を理解している。 よりよい生活を構築するための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法を話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に人間としての生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

【初等中等教育局通知(H31.3.29)(改善等通知)別紙4より】

② 学習指導要領の「特別活動の目標」と自校の実態を踏まえ、改善等通知の例示を参考に、特別活動の「評価の観点」とその趣旨を設定する。

特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。

\*特別活動における資質・能力の視点(「人間関係形成」)をもとに重点化を図った例

観点	互いのよさを生かす関係をつくるための知識・技能	協働してよりよい集団生活を築くための思考・判断・表現	主体的に多様な他者と関係をつくらうとする態度
趣旨	個人と集団との関係性および集団活動の意義を理解し、社会生活におけるきまりやマナーに則った行動の仕方を身に付けている。	様々な場面で、自分と異なる考えや立場にある他者を尊重して認め合い、支え合ったり補い合ったりして協働している。	様々な集団に積極的に所属し、他者の価値観や個性を受け入れ、新たな環境のもとで互いの可能性を發揮できる関係を築こうとしている。

③ 学習指導要領の「各活動・学校行事の目標」及び学習指導要領解説で例示した「各活動・学校行事における育成を目指す資質・能力」を参考に、各学校において育成を目指す資質・能力を重点化して設定する。

各学校の実態に合わせて育成を目指す資質・能力を重点化して設定します。

④ 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

### 「知識・技能」のポイント

話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉え、評価規準を作成します。

### 「思考・判断・表現」のポイント

話し合いや実践活動における、習得した基本的な知識・技能を活用して、課題を解決することと捉え、評価規準を作成します。「表現」は、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉えることとします。

### 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、評価規準を作成します。身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を生かして、よりよい生活を築こうとしたり、よりよく生きていこうとしたりする態度の観点を具体的に記述します。各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組み、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返ったりして」という表現を用います。

## 2 特別活動の学習評価の工夫

生徒の自己肯定感や生活や学習への意欲を高めるために

☆生徒一人一人のよさや可能性などを積極的に評価することが極めて重要である。

☆指導と評価に当たっては、各学校で「十分満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を指すのかを検討し、共通理解を図ってその取組を進めることが求められる。そのうえで、「目指す児童の姿」に照らして、十分満足できる活動の状況が見られた場合に指導要録に○を付ける。

生徒のよさや進歩の状況などをどのように捉えるかなどについて共通理解を図るとともに、教師相互の話し合いや情報交換を積極的に行うなど、学校全体で組織的、計画的に行うことが大切です。

「十分満足できる活動の状況」の児童の姿(参考資料 P54)

○目指す生徒の姿  
担任からの助言や友人の声を参考に、職場体験活動の経験を学校生活に生かそうとしている。  
【主体的に学習に取り組む態度】〈「キャリア・パスポート」、観察〉

学習指導案には、十分満足できる活動の状況を的確に見取るため、具体的に生徒の姿をいくつか想定し記述します。

## 3 観点別学習状況の評価の総括(参考資料 P58)

以下は、第 2 学年の学級活動(3)題材名「体験活動を学校生活につなげよう」における、補助簿の例です。総括で○を付ける際には、学校で共通理解を図っておくことが重要です。

生徒	知・技	思・判・表	主体的態度	担任メモ	総括
D	①		② ③	① 学ぶ意義、働く意義をよく理解している。(5/22) ② 人間関係形成には挨拶が大事であることを理解し、常に笑顔心がけようとしている。(6/11) ③ 進路に明確な目標をもち、課題解決に向けて日々努力しようとしている。(7/1)	○
B	①			① 職場体験活動を通じて働く意義を理解している。(5/10) a 6/1 役割について面談	
C	①	②	③	① 自分の役割を理解している。(6/17) ② 社会における自分の役割を考え、表明し、実行しようとしている。(7/4)	

担任メモの番号と連動させた数字で整理することにより、○の根拠が分かるようになります。

評価を指導に生かすため、場合によっては指導したことを記録することも考えられます。

## 4 中学校生徒指導要録における特別活動の記入例(参考資料 P41)

内容	観点	学年		
		1	2	3
学級活動	○よりよい生活を築くための知識・技能 ○集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	○	○	
生徒会活動	○主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度		○	
学校行事	余白		○	

全学年共通した、各学校で定めた評価の観点を記入します。評価の観点の変更がある場合を想定して、余白をとっておきます。

・各活動、学校行事ごとに、「十分満足できる活動の状況にある」と判断される場合に○印を記入します。

・学習指導要領に示す特別活動の目標や学校として重点化した内容を踏まえ、左の記入例のように、より具体的に評価の観点を示すことが考えられます。